

－第八回ユネスコスクール全国大会－

持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会 参加報告書

報告者 平群北小学校 教諭 中澤哲也

①プログラム

- ・開会式
- ・ESDの更なる推進に向けて
- ・パネルディスカッション
- ・ランチョンセッション（協力企業による社会貢献活動の紹介）
- ・テーマ別交流研修会（12分科会）
- ・中国・韓国のユネスコスクールでの活動事例紹介
- ・テーマ別交流研修会の報告
- ・第七回ESD大賞表彰式



②報告

（1）ランチョンセッションについて

ランチョンセッションでは株式会社ユニクロの社会貢献活動の紹介を視察した。ユニクロでは「”届けよう、服の力”プロジェクト」を掲げ、不要になった子ども服を回収し、世界の難民に配布するといった、リユース・リサイクル活動を行っている。2013年度からは、応募した学校に出前授業に行き、出前授業を受けた子ども達が、ポスターや呼び掛けを通して校内や地域に不要になった衣服の回収を行っている。2016年度は小中高271校、約3万人が参加した。この活動を通して、子ども達は世界に視野を広げ、自分にもできる社会貢献があることに気づいていくことができる。

（2）テーマ別交流研修会（12分科会）について

テーマ別交流研修会では金沢市立三馬小学校の田中先生の実践を通して「ESDで育てたい能力・態度の育成を目指したESDの授業づくり」について交流した。田中先生の実践について良かったところは、次の3点である。

1つ目は地域の川を教材化したことで、子ども達が身近に捉え、考えることができたこと。2つ目はESDの授業づくりにおいて、ESDで育てたい能力・態度の7観点から3つ選び、単元の中に丁寧に位置付けられたこと。3つ目に子どもの発見や疑問から授業を展開させ主体的に学べるように、入念にゲストティーチャーと打ち合わせをしたり、現地まで足を運んだり教材研究をされていたことである。

一方で、課題としては、ESDでは児童の行動化が求められるものの、今回の実践では「伏見川宣言」といった成果物を作成して終わってしまっているところや、他のクラスとの足並みをそろえ、学年として取り組むことの難しさなどがあげられる。今日、ESDの実践はホールスクールアプローチで取り組むことが求められるので、今回の実践を5年生の1年間で終えるのではなく、6年生になっても、系統立てた取り組みが必要であると考えます。また活動の様子などを地域に頻繁に発信したり、子供の地域行事の参加を授業に取り入れたりしていくといった実践など取り組んでいくことが求められると考えます。